

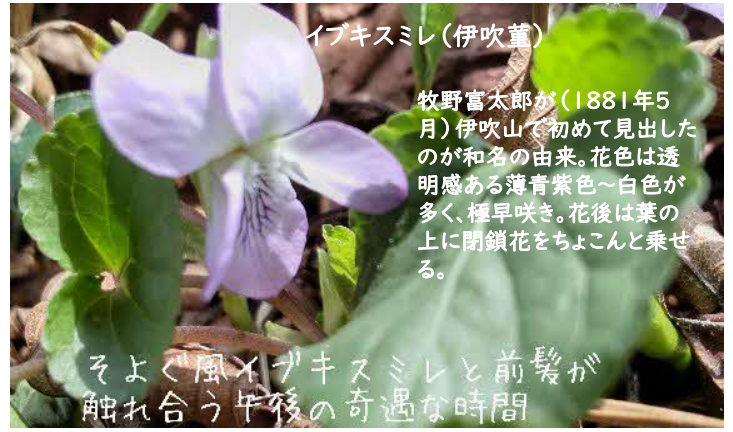
# 伊吹山花だより

第64号(令和5年4月)

上野区:ユウスゲと貴重植物を守り育てる会

2023年 花のシーズン開幕です。

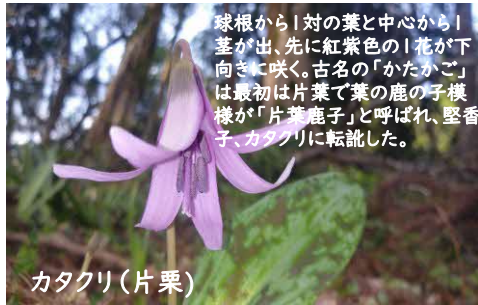
今年の伊吹山の冬は近年にない少雪となり、3月上旬には三合目でもセツブンソウが開花するなど花のシーズンが始まりました。と同時にニホンジカの食害から植物を守る獣害防止ネットの設置作業も完了です。



イブキスミレ(伊吹菫)

牧野富太郎が(1881年5月)伊吹山で初めて見出したのが和名の由来。花色は透有感ある薄青紫色~白色が多く、極早咲き。花後は葉の上に閉鎖花をちょこんと乗せる。

そよぐ風イブキスミレと前髪が  
触れ合う午後の奇遇な時間



球根から1対の葉と中心から1茎が出、先に紅紫色の1花が下向きに咲く。古名の「かたかご」は最初は片葉で葉の鹿の子模様を「片葉鹿子」と呼ばれ、堅香子、カタクリに転訛した。

カタクリ(片栗)



旧暦の節分の頃に咲くのが和名の由来。花卉のように見える5枚の純白の萼片。

セツブンソウ  
(節分草)

白黄青セツブンソウの  
咲き姿  
春風時折優しく撫でる



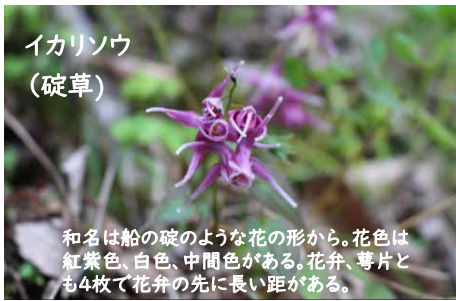
エイザンスミレ  
(叡山菫)

和名の由来は、比叡山で初めて発見されたか沢山自生していたか。花は、淡紅紫色で2~2.5cmと大きく華やかで香りも良い。葉は3全裂、側裂片がさらに2裂。



イチリンソウ  
(一輪草)

花びら状の萼片は5~6枚で白色で大きく、葉は3枚が輪生し、葉柄が長い。1本の茎に咲く花が1輪花なのが和名の由来。



イカリソウ  
(碓草)

和名は船の碓のような花の形から。花色は紅紫色、白色、中間色がある。花卉、萼片とも4枚で花卉の先に長い距がある。



エンレイソウ(延齡草)

根茎から茎が1本伸び、その先端に3枚の大きな葉が輪生し、真ん中の花柄の先に紫褐色の萼片が、横向きに咲く。胃腸薬で命が長らえたのが和名の由来。



フデリンドウ  
(筆竜胆)

2年草で、漏斗状の青紫色の花を茎先に1~10個上向きにつけ、日が当たるときだけ開く。陰ると閉じる様子が、筆の毛先に似るのが和名の由来。



ヤブレガサ(破れ傘)

芽出しから葉が展開し始めた頃の葉姿が破れた番傘に似るのが和名の由来。7月頃筒状の白い花をつける。

ヤブレガサ芽出しの姿愛おしく  
雨に震えて傘差し出して



ヤマエンゴサク  
(山延胡索)

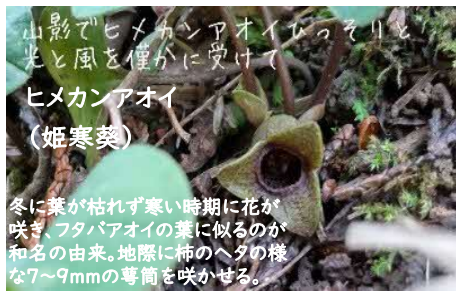
花色は青紫色~紅紫色まで変化があり、総状花序に5~10個花をつける。根を乾燥させた鎮痛剤の漢方薬の名が延胡索というのが和名の由来。

三合目までに出会えます。



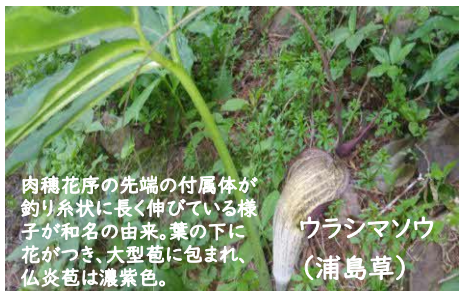
ヒロハノアマナ(広葉の甘菜)

花びらは内側に3枚、外側に3枚。茎頂に一輪だけ白い花を咲かせる。球根を食べると甘く、白い筋のある葉幅が広いのが和名の由来。



山影でヒメカンアオイのつぼみも  
光と風を僅かに受けて  
ヒメカンアオイ  
(姫寒葵)

冬に葉が枯れず寒い時期に花が咲き、フタバアオイの葉に似るのが和名の由来。地際には柿のヘタの様な7~9mmの萼筒を咲かせる。



ウラシマン'アウ  
(浦島草)

肉穂花序の先端の付属体が釣り糸状に長く伸びている様子が和名の由来。葉の下に花が付き、大型苞に包まれ、仏炎苞は濃紫色。

頂上でも出会えます。



キバナノアマナ(黄花の甘菜)

鱗茎から1葉と1茎を出し、茎先に2苞葉をつけ、その間から出た柄の先に3~10個花をつける。球根が甘く花色が黄色いのが和名の由来



ネコノメソウ  
(猫の目草)

一日毎に色が変わる筈や花後に裂け目ができる実を猫の目に見立てたのが和名の由来。葉が対生、萼裂片が直立し、雄しべが4本。



キジムシロ  
(雉筵)

和名は花後の葉が放射状に展開する姿がキノが座るムシロに例えられ。花色は黄色で5弁花。根元から出る小葉は、5~6枚で、先端の3枚の葉は羽状複葉。

4月から伊吹山3合目で毎月植物観察会開催！季節の花々をお楽しみに。

○開催日:4月16日(日)、5月21日(日)、6月25日(日)、7月23日(日)~25日(火)、8月20日(日)、9月24日(日)、10月15日(日) ○定員:各回20名  
 ○集合場所:伊吹山林道ゲート前(旧伊吹山 Gondola 山麓乗り場前) 集合時間:10:00 解散:12時半頃山麓で。  
 ○参加料金:500円(入山協力金含む)  
 ○申込み:4,5,6,8,9,10月開催分は、本チラシの右下記載の「ユウスゲと貴重植物を守り育てる会」の会長または副会長まで電話してください。7月開催分は、後日案内予定の「ユウスゲまつり」へ参加申込みをしてください。

\* 次の花々は、各月に見られる花の一部です。ただし、今年の気候の状況により見られない場合もあります。



2023年雪解け早く  
 3月9, 15日獣害防止ネット設置  
 これまでで最も早い三合目植生保全活動  
 スタートとなり、セツブンソウ、アマナ、ス  
 ハマソウ、ダンコウバイも咲き始めてまし  
 た。

2023年NHK朝の連続ドラマ「らんまん」の主人公牧野富太郎  
 牧野富太郎博士は、19歳の時から何度も伊吹山へ植物調査に訪れ、明治39年には山麓で  
 伊吹山植物講習会を300人規模で開催されました。伊吹山の植物が多く紹介された江戸  
 時代の書物で独学した牧野博士は、伊吹山への思い入れがとりわけ強かったのでしょう。  
 右の扁額は牧野博士の伊吹山への言葉を書かれたものです。薬草の香りが山に満ちてい  
 ると。インフォメーションセンターにあります。



ユウスゲと貴重植物を守り育てる会 会長 高橋滝治郎 TEL 090-3286-8191  
 副会長 堀江 寛 TEL 0749-58-1323